

様式第2号(第7条関係)

会議の開催結果

1 会議の名称	令和5年度第2回 さいたま市岩槻人形博物館運営委員会
2 会議の開催日時	令和6年3月4日(月曜日) 午前10時00分～午前11時30分
3 会議の開催場所	さいたま市岩槻人形博物館会議室
4 出席者名	新井委員長、是澤副委員長、大越委員、 中村委員、抜井委員、三次委員、森田委員
5 欠席者名	小野寺委員、水落委員
6 議題及び公開又は非公開の別	(議題) 1 報告事項 令和5年度事業について 2 審議事項 令和6年度事業計画(案)について (公開又は非公開の別) 公開
7 非公開の理由	—
8 傍聴者の数	0名
9 審議した内容	令和6年度事業計画(案)について
10 問合せ先	スポーツ文化局文化部 岩槻人形博物館 電話 048-749-0222 FAX 048-749-0225
11 その他	—

令和5年度第2回さいたま市岩槻人形博物館運営委員会 会議録

- 1 日 時 令和6年3月4日(月) 午前10時から午前11時30分まで
- 2 場 所 岩槻人形博物館 会議室
- 3 出席者 (1) 委員(7名)
新井久代委員長、是澤博昭副委員長、大越久子委員、中村美帆委員、抜井ゆかり委員、
三次宣夫委員、森田由美子委員
(2) 事務局
スポーツ文化局 鶴田局長、川田文化部長
岩槻人形博物館 田中館長、岩崎副館長、武井係長、林係長、竹山主事
※オブザーバー にぎわい交流館いわつき 中村館長、大金運営統括マネージャー
(3) 欠席者(2名)
小野寺秀一委員、水落恵一委員
- 4 公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴人の数 0名
- 6 内 容 以下「次第」のとおり
＜次第＞
 - 1 開会
 - 2 あいさつ
 - 3 報告事項 令和5年度事業について
 - 4 審議事項 令和6年度事業計画(案)について
 - 5 その他
 - 6 閉会

＜議事内容要約＞

報告事項 令和5年度事業について

審議事項 令和6年度事業計画(案)について

事務局から資料に基づく説明があり、これに対し各委員から次の通りの意見があった。

- 開館してすぐにコロナとなったが、4年が経ち早いペースで活動の枠ができていると感じる。これから、実際に運営していくことは、厳しく簡単なことではないと思うが、表面の形が整うということは、PRがしやすくなることなので、今後に期待したい。

特集展示「見る、知る、学ぶ！岩槻の人形学」については、常設展との内容が一部重複しているように感じた。今後、このような展覧会がシリーズ化していくのは良いと思うが、その際は、常設展示室において「開催中の特集展示ではさらに詳しい内容を学ぶことができる」等の案内があると良いと感じた。

特別企画展「人形 未来へのまなざしー中村信喬作品展」については、アーティストとしての側面が強く、突き抜けているため、雛人形などをイメージして来館した方はギャップを感じたのではないかと。

とても良い展覧会であったが、館として最初に開催する個展としては少しハードルが高かったのではないかという印象を受けた。今後は、他の展覧会との兼ね合いを見ながら、間を埋められるような展覧会ができれば良いと考える。今回の展示では作品の購入等はしなかったのか。

- 購入等はしていない。
- 企画展「にんぱくの雛祭り—商家に伝わるお雛さま—」のパンフレットはすごく分かりやすい。開館前の準備室の頃に作成したパンフレットは、専門的過ぎて分かりにくい内容であったことに比べると、明るいイメージで、現在の来館者のニーズにあっていると感じる。

来年度の事業計画（案）の展示事業について、講座・講演会は、外部の講師の専門的な話を聞くことも重要だが、研究成果を発表する機会であるので、展覧会の担当者が顔を見せて発表することを心掛ける必要がある。混雑時は会場ではなく、会議室等でスライドトークをするのも良いのではないか。

- ここ数年の異常な暑さにより、どの博物館も夏期の来館者数は厳しい状況と聞いているので、何か対策を講じたほうが良いのではないか。
- Instagram（インスタグラム）については、アド街ック天国の放映の後、閲覧数が増えている。また、掲載内容については、プレゼント企画や食べ物などの内容の閲覧数が増えている。その中でも特に良かったのは、展覧会の準備をしている動画で、閲覧数も多く、とても特徴的なリールであり、閲覧者の興味を引く内容であった。大宮盆栽美術館とのコラボ企画も、プレゼント企画があった影響もあるのか閲覧数が多かった。Instagramの投稿にも慣れ、うまく活用できている印象を受けた。

また、事業報告において職員向けのナイトミュージアムを実施したとあるが、魅力的な取組であるため、今後、一般の方にも広げていけたら良いのではないか。

現在、実施中の大宮盆栽美術館との連携事業は、どのような感触か。

- 大宮盆栽美術館からの誘客数としては、現時点において30件程度である。当館から大宮盆栽美術館へ送客した数より多いのが現状である。
- 大宮盆栽美術館は知名度も高いので、これからインバウンドに注力する中で、更なる連携を図っていく必要がある。また、インバウンドを実施するにあたり、盆栽や人形の文化に理解がある国やエリアなどのターゲットを絞る必要がある。

事業計画（案）の展示事業において、リピーターの獲得と新たな層への訴求とあるが、新たな層をどこに置いていくのか、しっかり絞って考えていくことが必要である。

観光面において、ドラマなどでメディアに外観等が取り上げられると、ファンの方が現地を訪れ、好きな人物やキャラクターの亚克力スタンドと一緒に写真を撮る、いわゆる「推し活」と言われるものが流行っており、博物館等の来館者数にも影響を及ぼしている。人形博物館の外観も素晴らしいので、ロケーションサービスなどを積極的に活用していくべきと考える。

- リピーターの獲得と新たな層への訴求とは、具体的にどのようなものを考えているのか。
- これまで、古典人形を中心に展示を行ってきたが、今年度の特別企画展は、当館初の現代作家の展覧会であり、新たな層を意識した展覧会であった。令和6年度についても、特別企画展「高橋まゆみ作品展」が新たな層の開拓につながるものと考えている。
- ロケーションサービスの活用についてはどのように考えているのか。また、施設を貸出す場合に料金等は発生するのか。
- さいたま市においてロケーションサービスを実施しており、当館もさいたま市のホームページで撮

影可能施設として掲載し周知をしている。撮影で施設を貸出す場合には、市の規則等で使用料を徴収することになっている。

- 事業報告の広報・プロモーションにおいて、公共施設で展覧会パネルなどを展示したとあるが、県庁本庁舎での展示の反応はいかがであったか。
- 展示場所が県知事をはじめ、多くの方が利用するエレベーター前であったため、広報という意味では効果があったものと考えている。
- 博物館の駐車場を見ていると、市外のナンバーの車も多く駐車されている。事業計画（案）では、周辺地域と連携するとあるが、近隣の春日部市や越谷市などの庁舎にもパネル展示などを依頼しても良いのではないか。
- 他の自治体とのチラシの配架などの相互PRは可能ではないか。資料10～11ページの事業報告の広報・プロモーションの実績について、(1)から(4)までは費用をかけているのに対し、(5)から(9)までは、費用をかけずにやっている取組であると思うが、費用をかけない地道な活動も認知度を上げるには効果は高いと思う。
- 様々な場所で人形等の制作体験を実施しているが、テレビなどのメディアに取り上げられた後の反響は非常に大きい。まちかど雛めぐり関連イベントとして、人形博物館の会議室で行なったワークショップもアド街ック天国の放映後の影響もあってか反響が大きかったので、メディアなどを通じて人の目に触れることは重要である。また、まちかど雛めぐりのチラシは市外の様々な施設にも配布しており、そのチラシを見た遠方から来る方もいたので、人形博物館もチラシを様々な場所に配布すれば、来館者が増えるのではないか。インターネットなどを見ることができない層もいるので、チラシやパンフレットなどを人の目に着く場所に配架することは重要である。

また、展覧会を観た方から、岩槻の人形が飾っていないとの声も聞く。常設でなくても良いので、人形作家の展示だけでなく、岩槻の人形店から人形を借用し、岩槻の人形を特集した展示を企画しても良いのではないかと思う。

- インターネットを活用した広報も大事であるが、高齢者などパソコンを使わない方も一定数いるので、デジタルだけではなく、アナログによる広報も同等に注力していく必要があると考える。
- コロナ禍の一番大変なタイミングでの開館であったが、基本的に凄く頑張っているミュージアムであると思う。今年度、来年度は広報に注力しているという認識でいる。先ほど、アナログ・デジタルの話があったが、岩槻駅を降りると観光案内所経由で、チラシなど博物館の情報が入手できる状況となっており、また、デジタルでの情報発信もしっかり取り組んでいると思う。

雛祭りの時期の来館者数が多いのはいつものことであるが、それ以外の時期が以前より課題となっている。2月の連休と3月3日前後に来館者のピークが2分散されているが、市外在住者は、雛祭りは3月3日の印象が強いので、2月の3連休でもイベント等をやっていることをうまく発信できれば、より多くの来館につながるのではないか。

また、ミュージアムだけでなく、グッズなどの販売も行っており、今後、入替制で岩槻に関するものを少しずつ置いていくのも、誇らしいミュージアムショップのあり方として面白いのではないか。

トイレ前に掲出してあるポスターも人形に関連する内容が集約されているので、とてもインパクトがあると感じている。

郷土資料館などであれば、人形同士の連携を図ることができるのではないか。そのほか、人形劇とつ

ながりができたら面白いと思う。人形劇団と連携するとパフォーマンスなどに展開でき、人形と人形劇という見せ方の可能性も広がるのではないかな。

また、先ほど、暑い日の来館者の話があったが、以前、駅からタクシーで博物館まで来たが、初乗り料金で利用できたので、それをもっとPRしても良いのではないかな。バス料金に少し足した料金であれば、駅から歩くのに抵抗のある方でも利用しやすいのではないかな。

また、ナイトミュージアムに関しては、動物園などでは夏期に実施しており、夏の来館者対策としてうまく恒例化できれば違ったPRになるのではないかな。

また、今の若い世代は、ジェンダーに関心がある若者が増えてきている。お雛様はある意味女の子のライフイベントとしてステレオタイプな部分もあるため、そういったことに疑問を持つ若者がいる中で、性の多様性に対応して、雛人形のバラ売りに対応している岩槻の人形店があるとの報道を見て興味深く思った。

○ 真夏のナイトミュージアムは実現に向けては様々な課題があると思うが、検討してもらいたい。人形劇団との連携についても展覧会では難しいと思うが、それ以外の部分での連携するのは面白いのではないかなと感じた。また、ポスターの話に加えて、チラシラックも綺麗に整っており素晴らしいと思った。

○ コロナが明け、様々なお祭りなどに呼ばれるようになったが、人形をどの様に修復したら良いかを必ず聞かれる。修復の方法として文化財的な修復、業者に依頼する修復が挙げられるが、業者に依頼する修復は、再利用として新たに活用していく場合であり、人形文化を継承する意味で残すという方向であれば文化財的な修復となるが、その際、文化財的な修復をどこに依頼したら良いかの質問が一番困る。来年度開催される企画展「にんぱくの人形修復」は、もしかしたら集客面では厳しいかもしれないが、人形修復を行なっている施設であるというアピールになり、量というより質的な意味において大変重要な展覧会であると考えている。

また、今年度開催した特別企画展については、猛暑の中の開催であったが、そのチャレンジ精神に敬意を表したい。作品として飛びぬけているので、開催にあたっては時期やタイミングを見計らう必要があると思う。今回の教訓や反省点などをしっかり整理し、今後活かす必要があると感じた。そのような意味では、先ほど話に出た人形劇では著名な作家もいるので、コラボしない手はないと考える。横浜人形の家は、赤い靴劇場のような人形劇専用の劇場を持っているが、岩槻ではどこで人形劇ができるかも含めて、今後の方針を考えても良いのではないかな。ゲームや三国志など若者をうまく取り込めるようなアンテナがあると思うので、上映する場所も含めて検討しても良いのではないかな。

○ 人形劇などの連携について、今後検討していることはあるか。

○ 今年度の特別企画展は作家個人であったが、来年度の特別企画展は人形館との協力で実施する予定である。今後、人形劇も含めた別の作家とのコラボも想定する中での来年度の高橋まゆみ作品展の開催となっている。発展的な意味では、当館所有の西澤笛畝コレクションにも人形芝居の資料もあるので、コレクションとの連動という意味でも人形劇など、いただいたご意見の方向性は有り得ると考えている。しかしながら、人形劇場という視点は今までなかったので、ご意見を踏まえて検討したいと考えている。

○ 博物館建設当初は、シアター機能も持たせたいというような話もあったと記憶しているが、野外などでの開催は可能であると考えているので、挑戦してもらいたい。ただ、著名な作家は権利関係が絡んでく

るので、館単独で計画するより、費用はかかるが企画会社を通すのが良いのではないかと。

また、国立アトリサーチセンターが昨年設立されたが、国立美術館のコレクションを組み立て、巡回展を回すセクションがあるので、館単独で借用が難しい資料などもそういった施設を利用するのも良いのではないかと。

- 来年度の修復に関する展覧会は、それほど集客は見込めないかもしれないが、今まで培った技術や情報を展覧会という形で情報発信することなので、一般の方はもちろん、博物館や資料館など、資料を所有している施設は多くあり、注目度は高いと思うので、期待している。
- 形ある図録などに残すと展覧会が終わった後も、配布することができるので、記録に残すようにしてほしい。
- 冊子について、企画展や特別展などあるが、取り扱いについての位置づけは決まっているのか。
- 特別展は自主企画の展覧会であり、数年学芸員が調査・研究した結果を発表する一番大きな展覧会であり、これには図録が附随するものである。企画展は、大きさは様々であるがパンフレット等を配布している。一番規模が小さいものが特集展示であり、展示室も縮小し展示を実施するものである。特別企画展は、外部との共催等で行う展覧会であり、発行物については先方との調整にはなるが、来館者の理解を深めるためにも、可能な限り用意したいと考えている。
- 文化財として修復してほしいとの意見を様々な場所で聞くので、他館からの協力要請があった場合は、館として積極的に関わり、協力体制を構築してもらえれば、さいたま市としても人形博物館を開館した意義が出てくるのではないかとと思う。
- 修復でも人形博物館が得意とする分野はあるのか。例えば、山車人形などはどうか。
- 山車人形については、文化財指定が広がる中、祭礼で使用するものであるため、業者が修復してしまうので文化財保護の観点からは危機的状況である。
- 今後、どのように修復したら良いかという相談が人形博物館にあるかもしれない。
- 山車人形は祭礼に使用され、文化財指定としてどうするかという議論はこれまでされてこなかったので、そのような中で修復機能などをどうするかとなった場合、人形博物館はコアな施設となると考える。
- 11月に来館者が増えているがその理由は。
- 特別展「岡本玉水 人形芸術にかけた生涯—御所人形から玉水推人形へ—」会期中にNHKニュースで取り上げられたので、その効果があったのではないかと。また、学芸員の努力により、展覧会の内容も良かったため、来館者数も7千人を超えたものとする。
- 大宮盆栽美術館でライトアップを行なっていたが、急に始まったことなのか。
- インバウンド施策として国の補助金を活用し、「ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」とセットでJ:COMの主催で行なった事業であり、集客も大分増えたようである。
- ライトアップやイルミネーションスポットなど、いわゆる「映える」写真が撮れる場所は若者はアンテナを張っている。
- ライトアップするには、夜間の開館が必要となるので、すぐには難しいと思うが若者を対象としては効果的ではないかと。
- そのような意味では、夜であれば妖怪やおばけの人形などの展示もありなのではないかと。
- 教育普及について、来年度はアウトリーチについて検討するとあるが、現状はどのようになっているのか。

るのか。

- 現状、アウトリーチは実施していないが、実施するには、館の人員を確保しなければならないなどの課題があるため、それらも踏まえ学校のニーズがあれば検討していきたいと考えている。
- 学校見学の受け入れも行っている中で、急にアウトリーチを取り入れると人数的にも対応が難しくなってしまうと思うが、一方でアウトリーチのニーズはあると思うので交通の便が悪い場所などを中心に検討してみしてほしい。

会議録作成

事務局が作成の上、その確認については委員長に一任することとされる。

The image shows the interior of a museum gallery. The floor is made of dark wood. On the left and right sides, there are long, low display cases with glass tops, containing various items. In the center, there is a tall, rectangular glass display case on a dark base, containing a doll in traditional Japanese attire. The walls are dark, and there are informational panels. The ceiling has recessed lighting.

令和5年度 第2回さいたま市岩槻人形博物館運営委員会

日時：令和6年3月4日（月）10時～
場所：さいたま市岩槻人形博物館 会議室

令和5年度第2回さいたま市岩槻人形博物館運営委員会 次第

日時：令和6年3月4日（月）
10時から11時30分まで
場所：さいたま市岩槻人形博物館会議室

1. 開会
2. 挨拶
3. 議題
 - (1)報告事項 令和5年度事業について
 - (2)審議事項 令和6年度事業計画（案）について
 - (3)その他
4. 閉会

※閉会后、企画展の観覧を予定しております。（任意参加）

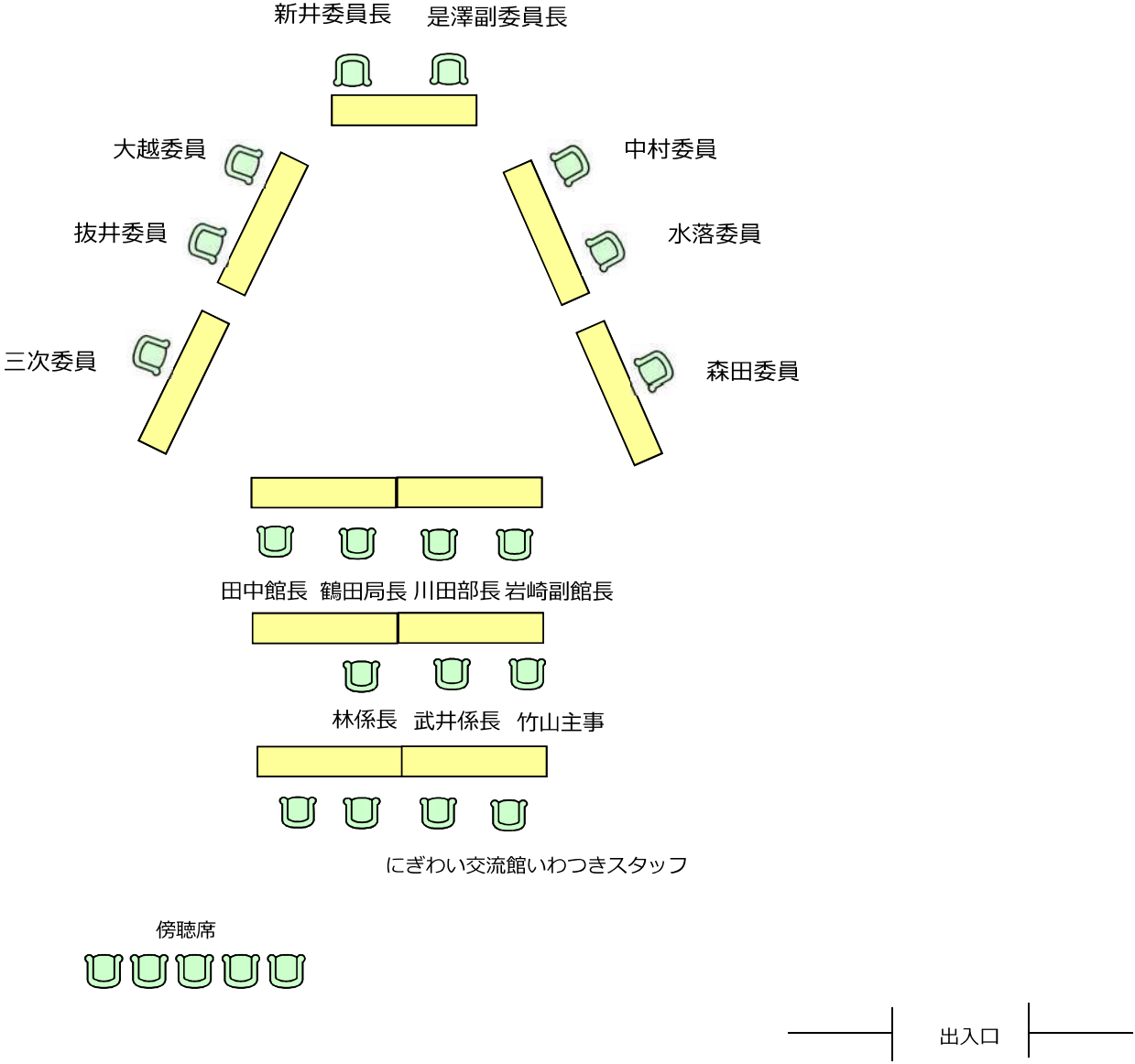
委員名簿

(敬称略 五十音順)

氏名	所属
新井 久代	公益財団法人遠山記念館 学芸員
大越 久子	埼玉県立近代美術館 主任専門員
小野寺 秀一	東武鉄道株式会社 岩槻駅長
是澤 博昭	大妻女子大学 教授
中村 美帆	青山学院大学 准教授
抜井 ゆかり	立教大学 兼任講師
水落 恵一	NPO法人岩槻・人形文化サポーターズ 理事
三次 宣夫	岩槻区自治会連合会 会長
森田 由美子	岩槻人形協同組合 婦人部長

任期：令和4年9月1日から令和6年8月31日まで

席次



議題

(1) 報告事項 令和5年度事業について

※第1回運営委員会以降の実績を追記

令和5年度事業について

1. 展示事業

特集展示

「見る、知る、学ぶ！岩槻の人形学」

会期：令和5年4月29日（土・祝）～7月2日（日）

開館日数：54日 来館者数4,919人

《関連イベント》

①ワークショップ にんラボ「なかのヒミツ 桐塑編」

期日：5月27日（土）

参加者数：13人

②ボランティアによるGW特別展示解説

期日：5月3日（水・祝）、5日（金・祝）各日2回開催

参加者数：総計91人 案内役ボランティア：5名



特別企画展

「人形 未来へのまなざし—中村信喬作品展」

会期：令和5年7月29日（土）～9月10日（日）

開館日数：38日 来館者数：3,427人

《関連イベント》

①デモンストレーション

期日：8月5日（土） 参加者数：37人

②特別ギャラリートーク

期日：8月6日（日） 参加者数：33人

講師①、②ともに中村信喬氏

③特別ギャラリートーク

期日：9月3日（日） 参加者数：56人

講師：中村信喬氏、是澤博昭氏



令和5年度事業について

特別展

「岡本玉水 人形芸術にかけた生涯—御所人形から玉水人形へ—」

会期：令和5年10月7日（土）～12月3日（日）

開館日数：51日 来館者数7,399人

図録：A4判変形、96頁、令和5年10月7日発行

《関連イベント》

①講演会「宿命の人形づくり—岡本玉水の人形芸術」

期日：11月5日（日） 参加者数：26人

講師：本橋浩介氏（佐倉市立美術館副主幹・学芸員）

②スライドトーク「作品から見る岡本玉水の生涯」

期日：10月29日（日）参加者数：17人

講師：担当学芸員

③学芸員による展示解説 参加者数：82人

期日：10月14日（土）、11月12日（日）、23日（木・祝）



企画展

「にんぱくの雛祭り — 商家に伝わるお雛さま —」

会期：令和6年1月27日（土）～3月24日（日）

パンフレット：B5判変形、12頁、令和6年1月27日発行

《関連イベント》

①ワークショップ「つくろう、おひなさま～ふじ雛の絵付け体験～」

期日：2月11日（日・祝）参加者数：8人

②スライドトーク「商家に伝わるお雛様—寄贈品を中心に—」

期日：2月17日（土）、3月2日（土）、10日（日）

③来館記念ノベルティグッズの配布

期日：3月3日（日） 雛祭りの日の観覧者が対象（先着500名）



令和5年度事業について

2. 教育普及事業

(1) 博学連携（学校見学等受入れ）

【受入実績】 (令和6年2月末現在)

内訳	学校数	参加人数
市内	32校	2,820人
市外	16校	1,352人
合計	48校	4,172人



学校見学受け入れの様子

(2) ボランティアの育成

【活動実績】 (令和6年2月末現在)

内容	実施回数	延べ人数
研修	10回	30人
特別展示解説	16回	16人
ワークショップ	4回	17人
合計	30回	63人



ボランティア研修の様子

【ボランティア登録状況】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
採用人数	4人	3人 (累計7人)	4人 (累計11人)	5人 (累計16人)

令和5年度事業について

3. 人形資料等収集・修復事業

(1) 人形資料等収集（購入・寄贈）

年度	令和元年度以前	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	合計
購入件数	987件	8件	10件	13件	14件	1,032件
寄贈件数	4,424件	56件	15件	107件	3件	4,605件
合計	5,411件	64件	25件	120件	17件	5,637件

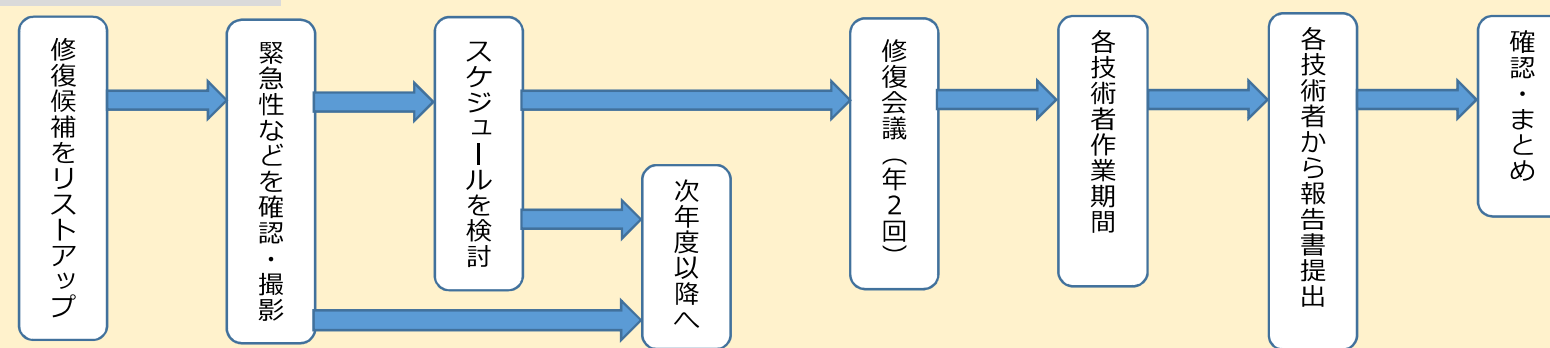
(2) 人形資料等修復

文化財修復技術者（会計年度任用職員）4名による資料修復を実施。

館内では取り扱いが難しい修復（主に紙資料）に関しては委託業者に依頼。

年度	令和元年度以前	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	合計
修復件数	397件	67件	39件	47件	44件（予定）	594件

修復事業の流れ



令和5年度事業について

4. 広報・プロモーションの実績

主な実施内容

(1) YouTube広告、WEB広告の実施

- ・特別展の開催に合わせて、YouTube広告、ニュースアプリ SmartNewsにおいて広告動画を配信

YouTube広告：配信期間10/21～11/20 表示回数（454,759回）

SmartNews広告：配信期間10/6～11/5表示回数（6,679,584回）

(2) 交通広告

- ・埼玉高速鉄道(株)の中吊り広告の掲出
【掲出期間】特別企画展（6/18～9/10）
特別展（9/24～12/3）
- ・さいたま新都心駅前大型映像装置広告の掲載
【内容】特別展PR動画（15秒）
【掲載期間】（10/1～11/30）【掲載回数】80回/日

(3) 広報用動画の作成

- ・館の周知及び来館者の満足度を図るため、館内外で放映するPR動画（館及びコレクションの紹介）を作成

(4) 広報用レプリカの作成

- ・館のPRに活用するため、名品コレクションの1つである「裸童」のレプリカを作成



特別展のYouTube広告



埼玉高速鉄道(株)中吊り広告



御所人形 裸童

令和5年度事業について

4. 広報・プロモーションの実績

(5) WATSUストリートマルシェでのPR

- ・ 展覧会の開催に合わせ、岩槻駅東口前クレセントモールで行われる「WATSUストリートマルシェ」に出店し、館及び展覧会をPR
- 【出店回数】3回（7月15日（土）、10月21日（土）、2月17日（土））



WATSUストリートマルシェの様子

(6) 公共施設での展覧会パネル等の展示

- ・ 埼玉県庁本庁舎（8月2日（水）～8月31日（木））
- ・ 岩槻区役所（10月17日（火）～11月20日（月））
- ・ さいたま市役所本庁舎（11月24日（金）～12月1日（金））

(7) ヨロ研カフェ（にぎわい交流館）との連携事業

- ・ ヨロ研カフェで買い物をした方に、当館の抽選会に参加できるコースターをプレゼント。ヨロ研カフェ来訪者の来館を促進

実施期間：令和5年11月3日（金）～11月10日（金）

コースター500枚を配布し、来館者145人



ヨロ研カフェ連携事業コースター

(8) 市職員を対象としたナイトミュージアムの実施

- ・ さいたま市職員に人形文化に触れ、本市の魅力を再認識してもらうことを目的に、職員を対象としたナイトミュージアムを実施

実施日時：令和5年11月22日（水）19時～20時 参加者数：52人

(9) メディア等での広報

- ・ テレビ（出没！アド街ック天国、NHK首都圏ネットワーク「おかえり天気」等）、新聞、ラジオ、雑誌、市報、ニコニコ美術館出演などによるPR



ニコニコ美術館

令和5年度事業について

6. その他連携事業

(1) さいたま国際芸術祭2023

①さいたま市文化施設 味変企画「市内文化施設に現代アートのスパイスを」

日程：10月3日（火）～10月29日（日）

場所：岩槻人形博物館ロビー

内容：アーティストによる人形制作の過程で用いられる型枠および型抜き作業から発想を得た、特殊照明装置とベルトコンベアーを雛人形とかけ合わせたアート作品を展示。

②CAR t -SAITAMA 2023

日程：10月8日（日）

場所：岩槻人形博物館駐車場

内容：様々な形態のアートカーが複数の展示会場間をキャラバン走行。
当館駐車場において、公道走行中では不可能なアートパフォーマンスを実施。

③さいたまアーティスト・イン・レジデンスプログラム①岩槻プログラム

日程：11月25日（土）、26日（日）

場所：岩槻人形博物館会議室

内容：岩槻区のアートスペース「スペース 845」で滞在制作を行ったアーティストたちが、当館で作品を発表。

(2) 盆栽美術館との連携事業

日程：12月12日（火）～3月31日（日）

内容：期間中に、当館及び大宮盆栽美術館どちらかの観覧券を、他方の窓口に提示すると、両館のノベルティグッズをプレゼントするキャンペーンを実施。

(3) 人形プロモーション事業「岩槻の人形展～受け継がれる職人の技～」

日程：2月23日（金・祝）～2月25日（日）

場所：岩槻人形博物館ロビー

内容：本市の観光部門が実施する人形プロモーション事業の一環として、岩槻人形協同組合による、伝統的な七段飾りやお雛様の小道具などの展示。



議題

(2) 審議事項 令和6年度事業計画（案）について

令和6年度事業計画（案）について

【令和6年度目標】

さいたま市総合振興計画基本計画実施計画（令和3年度～令和7年度）

目標指標		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間来館者数	目標	77,000人	74,000人	74,000人	74,000人	74,000人
	実績	29,254人	32,421人	—	—	—
館の認知度 ①市内在住者 ②在勤者	目標	—	①42.0% ②27.0%	①44.0% ②28.0%	①47.0% ②29.0%	①50.0% ②30.0%
	実績	—	①39.5% ②29.6%	①41.1% ②26.5%	—	—

令和6年度事業計画（案）

1. 展示事業

（1）基本的方向性

[展覧会] リピーターの獲得及び新たな層への訴求を意識した展示を実施
年4回（特集展示、企画展（夏）、特別企画展、企画展（雛））

[常設展示] リピーターを逃さないために飽きのこない展示替えを実施
年10回程度

令和6年度事業計画（案）について

2. 教育普及事業

(1) 博学連携（学校見学等受入れ）

【基本的方向性】

受け入れ体制の充実を図り、市内は元より**市外の学校にも積極的に情報を発信**し、学校見学の**受け入れの拡大**を行うとともに、アウトリーチについても、引き続き検討をする。

(2) ボランティアの育成

【基本的方向性】

展示解説の充実を図るため、**年間を通じて**ボランティアを募集・採用し、研修等により育成を行い、小中学校の校外学習での展示解説に加え、**希望団体への解説も対応**を検討。

(3) 講座・講演会・ワークショップ等

【基本的方向性】

講座・講演会については、各展覧会の**テーマに応じて実施**する。このほか定例的に常設展示の展示解説を実施する。また、ワークショップについては、ボランティアを中心とした準備・開催を目指し、定番的な内容のワークショップを通年実施する。

3. 人形資料等収集・修復事業

【基本的方向性】

当館コレクションの調査・研究を行い、その成果を展示などに生かすとともに、未来に継承すべき人形資料及び人形関連資料の収集を行う。

また、資料修復は劣化状況等を勘案しながら、優先順位を決定し修復を行うとともに、**これまでの成果を展覧会等を通じて、周知**していく。

令和6年度事業計画（案）について

4. 広報プロモーション

【基本的方向性】

来館者数の増加や館の認知度の向上を図るため、国内のみならずポストコロナを踏まえ、観光事業と連携し**インバウンドを意識した広報プロモーション**を展開していく。

[展覧会のプロモーション]

- ・各展覧会ごとのターゲットに応じた効果的なプロモーションを実施
- ・ソーシャルメディアを活用した情報の発信
- ・**市内観光施設及び周辺地域と連携し**、観光事業者へのツアー造成の依頼

[館の認知度向上に向けたプロモーション]

- ・関係団体や地域イベントと連携した「岩槻のまち」一体となった取組の実施
- ・他の美術館・博物館や周辺自治体との交流を推進し、相互による広報・展示の実施
- ・館の外観を生かしたメディアへの露出（ロケーションサービス等）

5. 地域との連携

【基本的方向性】

・岩槻人形協同組合や岩槻・人形文化サポーターズなどの地域団体やにぎわい交流館いわつきと連携した取組や地域イベントで館のPRを**積極的に実施**していく。